

〔 一般教養科 〕

〔 区 分 A 〕

佐渡 一邦

Rankscales of Infinitives and Intonation in English

佐渡一邦*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

甲南英文学 No. 35、pp23-47、(2021. 1)

英語のイントネーションにおいて調子単位は意味上の「節」である figure と関係があり、イントネーションと統語論は意味を介して間接的な関係であるとし、不定詞との関係を調査した。不定詞には節としての機能を果たすものとそうでないものがあることを明らかにし、節としての不定詞の場合、調子群の境界が認められた例は 40.3%で、節でなく動詞群をなす不定詞については 16.5%でその差は2倍以上であり、両者の違いはイントネーションで区別される傾向があったとした。

〔 区 分 C 〕

野田 善弘

中国語・国際理解の授業における A L 型授業の試み

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要、第 57 巻、pp43-48、(2021. 1)

本稿は、アクティブラーニングを取り入れた筆者の授業実践について報告したものである。

筆者は、台湾で実見したアクティブラーニング型の授業、台湾から受け入れた短期実習生が行った授業をさらに発展させ、アクティブラーニングを取り入れた授業を実践した。その概要を記述するとともに、あわせて今後の展望について論じた。

なお本稿は、本稿は、日本学術振興会・科学研究費補助金のうち基盤研究（C・一般）「理系学生用オリジナル中国語教科書に即したアクティブラーニングの開発及び事例集作成」（課題番号：18K00818 研究代表者：畑村学）の助成による研究成果の一部である。

木田 綾子

ヴィーラントと世界文学

木田綾子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第 57 巻、pp49-53、(2021. 1)

国境や民族の境界を越えた文学の交流を含意する「世界文学」という概念を確立したのはゲーテであるが、ヴィーラントはゲーテに先駆けてこの概念を取り入れていた。イギリス、フランス、スペイン等のヨーロッパ文学、並びにギリシア古典文学を模範にしたヴィーラントは、枠物語の形式をこれらの文学から

学んだと思われる。本論は、まずゲーテとヴィーラントがそれぞれ使用した「世界文学」という語について分析し、次に言語に精通していたヴィーラントの読書体験に着目することによって、翻訳家としても活躍したヴィーラントが世界文学とどのようにかわり、自らの作品に取り込んできたのかを明らかにした。

幼少期より教育環境に恵まれ、言語能力の高かったヴィーラントの読書は、国境を越えて広範囲にわたる。スイス時代におけるボードマーらとの人的交流、シュターディオン伯爵のサロンなど、文学の情報を得る機会にも恵まれた。ヴィーラントの編集した雑誌『ドイツ・メルクーア』では、世界の文学を翻訳して紹介し、批評文を掲載するなどして、ヴィーラント自身も雑誌の形で読者に交流の成果を提供した。当時活躍した文学者たちが協力して刊行した雑誌というメディアは、文学者の新たな交流の場としての可能性を広げた。

読書や交流の場で得た新しい文学の知識を、ヴィーラントは自らの作品に取り込んだ。古代ギリシャ・ローマの素材は、18世紀のドイツ社会を映し、風刺文学を生み出した。新しい文学ジャンルにも挑み、当時は低俗とされていた長編小説という散文のジャンルをドイツの文学界に広めることに貢献した。それがゲーテやロマン派の詩人たちの文学に発展することになる。世界文学を取り入れ、自国の文学の発展につなげたヴィーラントは、確かにゲーテの目指した「世界文学」構想の先駆者であった。

塚本 亜美

How to Use Like: Filler in American English Conversations

塚本亜美*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要、第57巻、pp54-66、(2021.1)

本研究は米語談話のコンテンツアナリシスである。筆者はこれまでアメリカ人の会話を観察してきたが、彼らがある特定のディスコースマーカ（語用指標）を用いること、例えばディスコースマーカとしての like を使う傾向があることを発見した。どうやらアメリカ人は言葉と言葉の隙間を埋めるために um や ah といったフィラーだけでなく、like も使うようであることがわかった。そこで筆者は米語の会話データを聴き、アメリカ英語話者による like の使用の特徴を探ってみた。

濱井 潤也

障害学生に対する合理的配慮を健常学生はどう見ているのか？—合理的配慮をする側の障害理解カリキュラム開発に向けて—

濱井潤也*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要、第57巻、pp67-76、(2021.1)

2016年4月の「障害者差別解消法（正式名称：障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」の施行により、学校教育現場においても国公立は法的義務として、私立は努力義務として障害を持つ学生が求める合理的配慮を実施することとなった。しかしそれに伴い筆者が所属する新居浜工業高等専門学校にて独自に実施している「合理的配慮の典型例についての意識調査」では、対象学生の約30%程度がケースによっては合理的配慮の実施に反対を選択し、その多くが配慮を不公平な特別扱いと見なしていることが判明した。また配慮の実施に賛成した学生の中にも「仕方がない」等の潜在的な不公平感を伺わせる回答が多数あった。すなわち「なぜ健常者が配慮しなければならないのか（障害者ばかり特別扱いで不公平ではないか?）」という疑問が解消されないままとなっているのであり、こうした事態が障害者に対する排他的な偏見やいじめを助長しかねないことは容易に想像できる。

したがって不公平感の源泉である「なぜ健常者が配慮しなければならないのか」という倫理的正当性に対する疑問を主題とする障害理解教育を通じて、不公平感を我慢してではなく納得した上で障害者と健常者の共生社会を担う意識を形成する新たなカリキュラムを開発する必要がある。

そこで本研究では、16歳から最大で22歳までの幅広い年齢層の学生が通う高専の環境を利用して、これまでに実施した合理的配慮についての学生の意識調査を実施し、この結果を検証することで、合理的配慮に携わる多様な人々がどの程度の割合でネガティブなイメージを、またどのような理由でそれを抱いているのかを明らかにする。

〔区 分 D〕

木田 綾子

ドイツにおけるクリスマスの文化

木田綾子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

愛媛日独協会会報、第27号、pp1-8、(2020.7)

本報告書は、2019年7月6日に愛媛大学において愛媛日独協会会員向けに講演した内容をまとめたものである。

ドイツでクリスマスまでに行われるアドベントカレンダーやアドベントクランツなどの風習や、各都市のクリスマスマーケットの様子を、ミュンヘン留学中に撮影した写真とともに紹介した。また、ゲーテやシュトルム、マンなど、クリスマスに関連した作品を引用しながら、18世紀後半から19世紀のドイツにおけるクリスマスの雰囲気伝えた。

〔区 分 E〕

野田 善弘

『理系のための中国語』を用いたオンライン授業

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

2020年度中国地区高専中国理解・中国語教育研究会、(2020.9)

Covid-19の影響によって、本校では5月からオンラインによる遠隔授業を余儀なくされた。本報告では、筆者が新居浜高専で行った授業の教材等を示し、その概要を説明した。あわせて各高専のオンライン授業を比較して筆者の取組を相対化することができた。

なお本稿は、本稿は、日本学術振興会・科学研究費補助金のうち基盤研究(C・一般)「理系学生用オリジナル中国語教科書に即したアクティブラーニングの開発及び事例集作成」(課題番号:18K00818 研究代表者:畑村学)の助成による研究成果の一部である。

野田 善弘

コロナ時代の新しい国際交流

畑村学*1、野田善弘*2、杉山明*3、松本高志*4、田川晋也*5、Nicholas Andrew Ivins*6、錦織さくら*7、橋本剛*8

*1 宇部工業高等専門学校一般科、*2 新居浜工業高等専門学校一般教養科、

*3 津山工業高等専門学校総合理工学科、*4 阿南工業高等専門学校創造技術工学科、
*5 宇部工業高等専門学校経営情報学科、*6 松江工業高等専門学校人文科学科、
*7 松江工業高等専門学校電子情報システム工学専攻、*8 松江工業高等専門学校情報工学科
2020 KOSEN フォーラム、(2021. 3)

KOSEN フォーラムのオーガナイズドセッション「コロナ時代の国際交流」に参加し、「台湾提携校と連携したオンライン中国語研修」と題して報告した。

筆者は、昨年9月から台湾国立聯合大学華語文学系と連携して「オンライン中国語」を実施した。これは聯合大学の学生が講師となり、本校の学生に対して1対1のオンライン授業を行うもので、本校から1名参加し授業を体験した。そこで、参加した学生の感想を交え、その概要について発表した。

コロナ下において国際交流をどのように進めていくかをテーマに、各校の取組と今後の展望を議論した。

木田 綾子

ヴィーラントと世界文学

木田綾子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本独文学会中国四国支部第69回総会・研究発表会、(2020. 10)

クリストフ・マルティン・ヴィーラントは、ドイツにおける長編小説の基礎を築いた作家とされているが、作品自体は現代において古臭さは否めず、あまり顧みられなくなった。確かに、『ドン・シルビオの冒険』や『アガトン物語』など、代表作の数々は、ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』以降の作品に多く見られる、人間の内面を深く掘り下げるといったものではないだろう。しかし、他のヨーロッパ諸国で既に確立されつつあった長編小説という散文形式に着目し、さらに内容においては独自の思想を盛り込むことによって、当時まだドイツでは遅れていた散文という表現形式の可能性を広げたことは間違いない。「世界文学」という概念を確立させたのは晩年のゲーテと言われているが、ヴィーラントはゲーテより四半世紀ほど前にこの単語を用いていた。それは、ゲーテの目指した「国際交流」をも含む構想までは及ばないかもしれない。しかしながら、ヴィーラントの作品には、ゲーテの構想の一部がすでに実践されていたのではないかとと思われるような、世界文学との交流ともいべき影響関係が多々見受けられる。古代ギリシャ・ローマの文学をはじめとして、フランスやイギリス、イタリア、スペインなど、時代や国境を越えて多くの文献を研究してきたヴィーラントは、この概念に必然的にたどり着いていたのであろう。

本発表は、言語に精通していたヴィーラントの読書体験、すなわち、世界文学とのかかわりについて考察しながら、翻訳家としても活躍したヴィーラントが、世界文学を自らの作品にどのように取り込んでいたのかを明らかにすることを目指した。

木田 綾子

ゾフィー・フォン・ラ・ロッシュについて

木田綾子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

「ドイツ語圏女性文化研究会」第一回研究集会、(2020. 11)

ゲーテやヴィーラントとも親交のあったゾフィー・フォン・ラ・ロッシュは、女性向け長編小説のジャンルを確立し、女性誌の刊行に尽力するなど、女性が作家として生計を立てる道を切り開いた。本発表では、ラ・ロッシュについて書かれた文献をもとに、彼女の生い立ちや作品について紹介した。

平田 隆一郎

新居浜高専における令和2年度前期遠隔授業の取り組みについて

先山卓朗*1、田中大介*2、白井みゆき*3、堤主計*4、志賀信哉*5、松田一秀*6、平田隆一郎*7、
福田京也*3

*1 新居浜工業高等専門学校電気情報工学科、*2 新居浜工業高等専門学校機械工学科

*3 新居浜工業高等専門学校電子制御工学科、*4 新居浜工業高等専門学校生物応用化学科

*5 新居浜工業高等専門学校環境材料工学科、*6 新居浜工業高等専門学校数理科

*7 新居浜工業高等専門学校一般教養科

2020 KOSEN フォーラム、ポスターセッション P-14、(2021.3)

新居浜高専では、新型コロナウイルス感染症対策として、始業日を約1ヶ月延期し、5月11日から8月5日まで完全遠隔方式により授業を開始した。本稿では、新居浜高専における遠隔授業の取り組みについて報告する。

学生への予備調査の結果、約2割の学生が通信環境や端末環境が十分には整っていないことが判明したため、本校ではライブ方式の遠隔授業配信は原則禁止とし、オンデマンド教材を利用した遠隔授業を実施した。LMS と Office365 を組み合わせた方法について報告する。